

会長挨拶

国大化学会会長 横山幸男（昭和49年電化卒）

同窓会の正常な活動ができなくなって3年目、この間いろいろな手立てを講じて学生支援・研究支援を行ってきたが、この原稿の執筆中にも過去最多の感染者数が連日報じられている。この聞き飽きたフレーズ（と言っではいけないのだと思うが）はいつまで続くのであろうか。いっぽう社会活動はといえば、皆マスク（昔から日本人はマスク姿に抵抗がない）をしていること以外は普段に戻っている感はある。バスも電車も道路もお店も普通に混んでいる。そして、風邪をひく一番の原因は人込みであることに間違いない。筆者の父親は人一倍健康に留意する人であったことから、外から帰ったらまず手を洗え、うがいしろ、人込みではマスクしろ（昔はガーゼのマスクしかなかった）と、ことあるごとに唱えていたことを思い出す。今まさにこれが我々にできる新型コロナウイルス感染症対策であろう。

理工系創立100周年記念事業は三年がかりになると、この春に実行委員会から説明を受けた。2020年春の名教自然碑の清掃と周辺整備に始まり、その後のコロナ禍により計画は大幅に遅れ、その秋に予定された記念式典と祝賀会は一年延期となった。ようやく2021年11月20日に本学教育文化ホールにおいて記念式典が挙行されたが、規模を縮小し列席者も限定、当然祝賀会は開催されずというところで、梅原学長以下の祝辞に終始した簡素な催しとなった。引き続き行われた記念講演会では、旭化成(株)名誉フェローのノーベル化学賞受賞者吉野彰氏による「リチウムイオン電池が拓く未来社会」のご高話を頂いた。これもコロナ対策の下、学生のみを対象とした一会場の講演を他会場は学内限定ライブ配信の形がとられた。デザインコンペ一位案を基本とする西門周辺



整備事業は、一期、二期、三期に分けて実施され、既に一期は完了したとのことである。国大西のバス停ロータリーに回廊屋根が設置される予定であるが、これら一連の工事は学生の休業期間にしかできないので、完了は来年春になるとのこと、期待しよう。なお、本会ホームページにある理工系創立100周年記念サイトのボタンから、一期工事のBefore-Afterを見ることができる。

令和三年度YNUプラウド卒業生に、本会推薦の中西準子氏（1961年化学工業科卒）が選ばれた、昨年の相澤益男氏に次いで二年連続である。おめでとうございます。氏の経歴については本紙に掲載の紹介文を参照して頂きたい。なお、相澤先生には本誌にも興味深いエッセイをご寄稿いただき、感謝を申し上げます。

コロナ禍3年目ともなると、こういう環境に慣れてきたせいもあるのか、この春から、キャンパス内の賑わいは通常に戻ったように見える。ただし、学内における集会や懇親会の開催は今のところ難しい状況にあるので、国大化学会のメインイベントは3年連続中止とした。来年こそは、会員諸氏が一堂に会する場面がもてることを切に願う次第である。